

「1 学校で休み時間に大地震が起きたら」

- 学習のねらい：1. 自分が通っている学校で、どのような危険が起こるかを理解する。
2. 校内の場所に応じて、適切な危険回避の方法を理解する。
3. 避難時に注意すべきことを理解する。

(指導上のポイント)

- ◆児童が危険と考えた理由についても発表させる。
- ◆自分たちの学校で、どのような危険が発生するかを考えさせる。
- ◆学校で身を守る方法について考えさせる。
例) 教室では机の下に隠れる。
図書室では本棚から離れる。
- ◆緊急地震速報が放送された場合、周りに声をかけるなど、落ち着いて行動できるよう指導する。

《参考》

○学校で考えられる危険

- 【教室】時計・放送機器の落下、本棚・ロッカーの転倒、照明器具・天井部材の落下、窓ガラスの飛散
- 【廊下】掲示板の落下、防火扉の破損
- 【階段】階段からの転落、壁の剥落
- 【昇降口】下駄箱の転倒
- 【図書室】本棚の上段にある図書等の落下、本棚の転倒
- 【理科室】薬品棚の転倒、実験中の器具の破損・薬品の飛散・引火
- 【音楽室】ピアノの横滑り、楽器の転倒
- 【家庭科室】食器棚の転倒、包丁・食器などの落下と破損、ガス漏れ
- 【体育館】体育器具の落下・転倒
- 【校庭】窓ガラスの破損と破片の落下、外壁材の剥落、運動用具・遊具の損壊、銅像の倒壊

(次年度以降の展開例)

- ・ 学校の見取り図を使って、学校でどのような危険が発生し、どう危険を回避するかを考えさせる。
- ・ 避難訓練と組み合わせ、場所ごとの適切な危険回避を考えさせる。
などが考えられる。

(2) 学校で大地震が起ったら

どうしたら身を守ることができるでしょうか？下の絵を見て考えたことを書いてみましょう。

場所	予想される危険	身の守り方
ろう下 階段	・ 掲示板の落下 ・ 階段から転落	・ 本で頭を守る。 ・ 手すりにつかまる。
げた箱	・ 下駄箱の転倒	・ 下駄箱から離れる。
理科室	・ 薬品棚の転倒	・ 薬品棚から離れる。
ほかに、どんな場所が考えられますか。書いてみましょう。		
図書室	本棚の転倒	本棚から離れる。
音楽室	ピアノの横滑り	ピアノから離れる。
体育館	照明器具の落下	中央に集まって、 身を守る。

ゆれがおさまって、避難するときは…

- 校内放送があったら、静かに聞こう。
- ろう下や 階だんでは、**あ**さない。**は**しらない。**し**ゃべらない。
- 避難するときは、われたガラスに気をつけよう。
- 津波が来そうなときは、急いで高い場所へ避難しよう。
- 安全な場所に避難したら、**も**どらない。



(指導上のポイント)

- ◆ 地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所を見つけ出して身を寄せ、自分で自分の身を守ることを指導する。
- ◆ 地震発生時に教職員がいる場合は、教職員の指示に従うことを指導する。

(指導上のポイント)

- ◆ 「お・は・し・も」を指導する。
 - ・【おさない】、【はしらない】、【しゃべらない】、【もどらない】
- ◆ 「はしらない」は、廊下、階段でのけがを防ぐためのものであり(校舎内)、外へ避難したら走る場合もある。
- ◆ 定められている避難場所、避難ルートを指導する。
- ◆ 「津波が来そうなら、急いで高い場所へ避難しよう」とあるが、各市町に津波避難場所を確認するなど、地域の実態に合わせて指導する。
- ◆ 津波による被害が予想される学校や第1次避難場所が危険な場合は、第2次避難場所への避難が必要になる場合があることを指導する。

《参考》

○場所ごとの危険回避方法

【教室】机の下に隠れて、両手で机の脚をしっかりと持つ。

【廊下】頭をカバンや本、手で守る。照明器具、窓ガラス、ドアからなるべく離れる。

【階段】手すりにつかまり、揺れがおさまったら安全を確認しながら降りる。

【昇降口】下駄箱から離れる。あわてて外に出ない。

【図書室】本棚から離れ、テーブルの下にもぐる。テーブルまでたどり着けない場合は、持っている本・雑誌などで頭を守る。

【理科室】薬品棚から離れる。

【音楽室】ピアノ、楽器棚などから離れる。

【家庭科室】包丁や皿などが落ちてくることを考え、頭を守る。

【体育館】中央に集まり、身を守る。

【校庭】サッカーゴールなどの体育器具や校舎から遠ざかり、中央に集まる。

(確認)

学校での危険に対して、適切な回避行動を取れば、けがを防ぎ、避難できることを理解できたか。